

第5回 令和元年度大規模盛土造成地防災対策検討会 議事概要

日時：令和2年 1月30日（木）15：00～17：00

場所：中央合同庁舎3号館6階都市局局議室

1. 開 会

2. 議 事

(1) 報告（案）について

・事務局より、資料1「令和元年度大規模盛土造成地防災対策検討会報告（案）」、資料2「報告（案）参考資料」、資料3「報告（案）概要」に基づき説明があり、報告（案）の各項目について、委員より以下の発言があった。

・「1. 大規模盛土造成地の事前対策の意義の再整理」について

全ての盛土が大地震時に滑動崩落すると誤解されないように記載する必要があること、被害額の算定対象を明記したほうがよいこと、事前対策の意義としてまず人的被害の防止があげられること、人命やコミュニティを守る観点からも大規模な盛土造成地について継続的に事前対策を行っていく必要があること 等

・「2. 大規模盛土造成地の公表と活用の推進」

大規模盛土造成地マップの趣旨・性格について、報告に記載することが望ましいこと 等

・「3. 大規模盛土造成地の安全性の把握・対策工事の計画的な推進」

まちづくりと防災対策を連携させるにあたり居住誘導区域の指定等の時期と対策事業の実施時期の前後関係について留意する必要があること、宅地造成等規制法の区域指定や勧告等の権限移譲にあたっては移譲先の実態に則した運用方法を示す必要があること 等

・「4. 安全性の把握を効果的に進めていくための方策」

盛土への地下水の浸入について、暗渠排水の機能低下等による盛土内の地下水位上昇と表現したほうが適切であること、情報提供は安全な箇所のみならず危険な箇所を知らせることが重要であること、合意形成の円滑化を図るためにはトップランナーが開発した知見を他の地方公共団体に展開する必要があること 等

・「5. 民間と連携した宅地の安全確保の取り組みの推進」、「さらなる検討課題」

何らかの形でデベロッパーを巻き込む必要があるのではないか、大規模盛土造成地の情報を消費者に伝える仕組みが必要なのではないか、降雨強度が上がってくると地下水のみならず表流水への対応の検討も必要ではないか 等

・委員長より、報告（案）の取り扱いについて、本日の会議での意見等を踏まえて事務局で修正案を作成した上で、最終的には委員長一任とさせていただきたい旨提案があり、出席委員一同より異議なしの旨発言があった。

(2) その他

・事務局より、最終報告のとりまとめ手順について説明があった。

3. 閉 会

・都市局長より、閉会にあたっての挨拶があった。

(以上)